

「第3回利用団体説明会」

1. 趣旨

国立赤城青少年交流の家を利用する団体の引率者が、施設の利用方法や各活動プログラムの内容を理解するとともに、実際にプログラムの一部を体験する。

2. 事業の概要

(1) 期 日

令和6年8月23日（金）

(2) 参加者

①参加対象 令和6年度利用団体、利用の仕方の説明を希望する各団体の引率者

Aコース：8月27日以降ご利用の団体

Bコース：10月1日以降ご利用の団体

②参加人数 Bコース（応募6団体10名）

③参加者の内訳 小学校教諭10名

3. 企画運営のポイント

(1) 体験を主としたAコースと施設説明を主としたBコースを利用期間に応じて選択できるように計画した。

(2) 両コースともゆとりある時間配分にして、参加者からの質問を受けやすい体制を整えた。

(3) 開催日を平日に設定し、学校職員等が出張で参加できるようにした。

4. 日程

	午 前	午 後
Aコース	開会行事 野外炊事「カレーライスづくり」	野外炊事「カレーライスづくり」 キャンプファイヤー薪組み アドベンチャーラリー アンケート記入
Bコース	開会行事 施設利用説明 施設見学	施設見学 個別打ち合わせ アンケート記入

5. 主な活動内容



個別打ち合せ



アドベンチャーラリー



野外炊事

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足10名（100%）

(2) 参加者の声

- 前年度からの変更点や登山する山の状況など知ることができてよかった。
- 個別の打ち合わせでは、教員目線で細かいアドバイスを聞くことができた。
- 実際に体験することで、子供たちの動きやつまづきやすい場面を把握することができた。
- 子供と同じ活動を体験することで、どれくらいの時間がかかるかイメージができ、実際の計画に生かせると感じた。
- 活動で準備する物について丁寧に説明していただき安心した。

(3) 成果

- ABコースともに、各団体のニーズに合った対応ができ、高い満足度につながった。
- 学校団体としては平日開催がありがたいとの声が多かった。
- 登山を実施する団体には、現在の山の状況や野生動物の情報などを直接伝える良い機会となった。
- ABコースともに、「個別の相談に丁寧に対応していただき、助かった。」「活動で使う準備物についても丁寧に教えていただいた。」などの感想が多いことから、ゆとりをもった計画をたてたことで参加者の高い満足度につながった。

(4) 課題

- Aコースは実施希望の多いプログラムを中心に設定したが、プログラムによっては実施しない団体もある。実施しないプログラムの時間は個別の質問を受ける時間や施設見学を実施できる時間として設定するなどの工夫が必要である。
- 施設説明を中心としたBコースでは参加団体が少なかったこともあり、個別の打ち合わせに十分な時間を確保することができた。しかし、参加団体が多い場合には、職員の分担・配置に関して配慮が必要である。

担当：中山 太平